

近江牛発祥の地から世界へ地域一体となって“近江牛”ブランドを発信

有限会社澤井牧場

代表者：代表取締役 澤井 隆男

所在地：滋賀県蒲生郡竜王町山之上2656

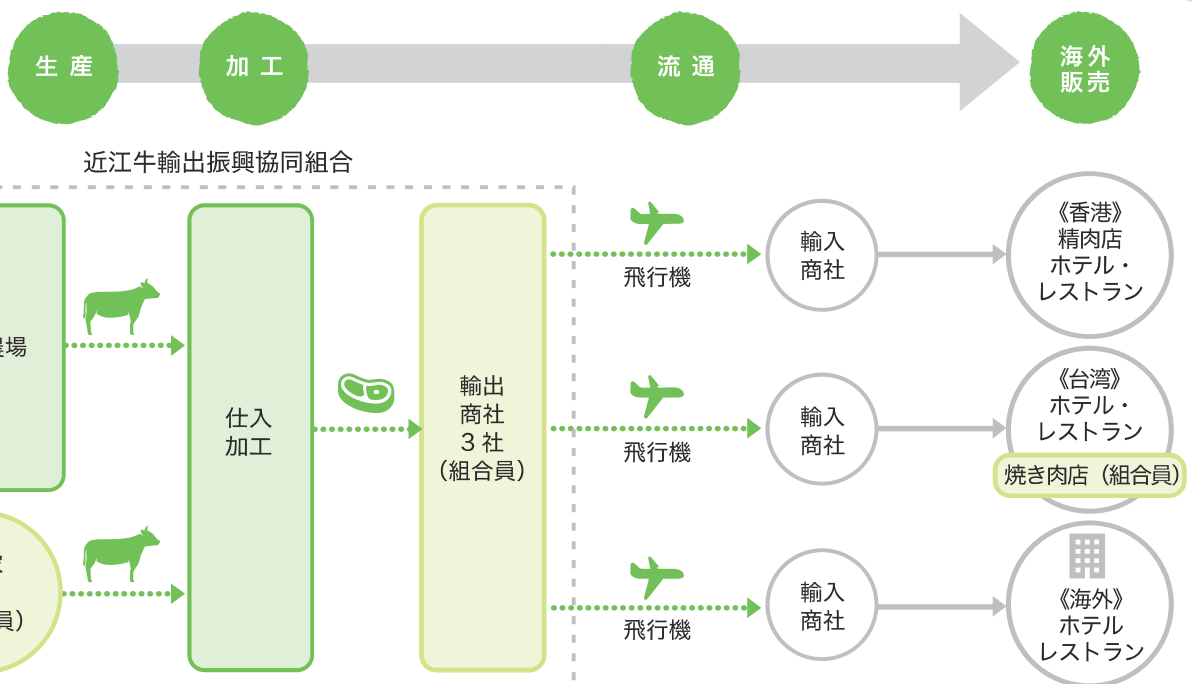
主な品目：肉牛（部位別） 15品目

主な輸出先国：シンガポール、タイ、インドネシア等 約10か国

事業概要：

近江牛発祥の地である滋賀県蒲生郡竜王町山之上にて肉牛の肥育を行っている。肥育頭数は2,000頭、年間1,000頭を出荷。生産管理にも逸早く取り組み、農場HACCPや肉牛農家では県内で唯一のJ-GAP認証を取得している。

Business model



輸出の取り組み内容

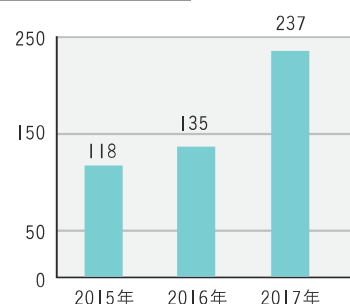
- 2010年に設立した近江牛輸出振興協同組合のメンバーと一体となって輸出に取り組んでおり、計500頭(当社300頭)の近江牛を輸出している。また、海外向け統一ブランド「近江姫和牛」として輸出することでブランディング・差別化にも取り組んでいる。「近江姫和牛」はインドネシアで商標登録もしている。
- 近江牛輸出振興協同組合のメンバーに輸出業者が3名おり、組合メンバーと連携して輸出体制を構築している。また、他のメンバーが海外で近江牛を取り扱う焼き肉店をオープンする等、生産から輸出、現地販売まで近江牛輸出振興協同組合が一体となって取り組んでいる。

取り組み経緯

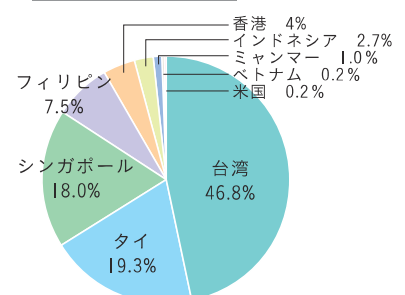
- 2007年に輸出業者と組んでロサンゼルス・ラスベガスへ近江牛の輸出を開始したが、BSEの問題が発生し、米国への輸出ができなくなった。その後、2009年に滋賀食肉工場がマカオ向け輸出施設の認定を受けたことによってマカオを皮切りにシンガポール、タイ、ミャンマー、フィリピン、ベトナム、台湾の7か国へ当社の近江牛が輸出できるようになった。

実績

輸出額(百万円)



輸出国別割合



Point!



- 生産者、輸出業者、買受業者、荷受業者等13業者で近江牛輸出振興協同組合を組成しチーム一体となって輸出している。
- 海外向けはロイン系(サーロイン、リブロース、フィレ)のみのニーズが多く、輸送コストも含めると割高になっていたが、全ての部位をカットするセカンダリーカットを行い、一頭全てを輸出することによって、輸出量を増やすとともに輸送コストを下げることで輸出が拡大している。

[課題と解決ポイント]

課題 01

海外ではロイン系の需要のが多く輸送コストが割高になるうえ、他の部位は国内で消費するしかなかった。

課題 02

部位別に輸出できるようになったが、現地で肉をスライスできる職人がいなかった。

課題 03

海外ビジネスでは、言葉も文化も異なるため、当社のみではビジネスが進まないことが多かった。

解決 01

海外ではステーキしか供給していないことに気づき、すき焼きやしゃぶしゃぶ等の和食料理を提案することによって他の部位も一緒に輸出することが可能になった。その結果、同じ300頭でも量が増えることによって輸送コストの削減に繋がり現地での販売価格を下げることでできている。(参考価格:サーロイン国内15,000円/kg、海外3万円~4万円/kg)

解決 02

現地で肉の捌き方を指導することによって、セカンダリーカットして輸送したブロックを現地でカットして販売できるようになった。特に香港のパートナーはまったくの素人であったが、肉の捌き方を日本で学び精肉店をオープンし、近江牛をまるごと1頭仕入れ、現地でカッティングして部位別に販売している。

解決 03

海外では突然ビジネスがストップするなど対応が難しかった。輸出に当たっては組合のメンバーである輸出業者と一体となり、輸出業者に国内渡りで販売することによって供給側のリスクを軽減できている。一方で、販路開拓は、当社と輸出業者がそれぞれ別ルートで開拓することにより、ダブルでの販路開拓もできおり、WIN-WINの関係を構築できている。

今後の事業展開

現在、滋賀県内の肉牛農家でJ-GAP認証を取得できているのは当社のみであるが、当社のノウハウを地域の生産者と共有し、地域一体となって2020年の東京オリンピック・パラリンピックに近江牛をアピールする体制を作り、輸出も拡大していきたい。



インドネシアでの販売風景



組合員の焼き肉店(台北)



ベトナムでのブロックカットの指導